

# 人間関係上の課題を有する特別な教育的支援を必要とする幼児へのハイブリッド型 SST の効果

○戸ヶ崎 泰子

(宮崎大学教育学部)

KEY WORDS: 個別 SST、集団 SST、人間関係上の課題を有する幼児

## 目的

幼児期は、就学後の学習や集団生活、あるいはその後の自立や社会参加の基盤を形成する重要な時期である。この時期に、発達障害等のある子どもは適切な支援を受けることができないと、その後の学習や生活において様々な困難を抱えるリスクが高まる(笹森他, 2010)。

社会的スキル訓練(social skills training:以下 SST)は、人間関係上の課題を抱えている子どもを援助する有効な技法の一つであり、発達障害児に対する効果も確認されている。また、SST には、個別で実施するものと学級などの集団で実施するものに分類でき(佐藤・佐藤, 2006)、個別 SST は、対象者一人ひとりのニーズに合わせて適用するため、課題であるスキルの習得を促すのに有効である。しかし、日常生活場面への般化が難しいという指摘がある(是枝他, 2006)。一方、集団 SST は、対象児の学級等で仲間と共に実施するため般化が促進されやすい。しかし、個人の特性に応じた配慮を行うことが難しい(金山他, 2002)。

そこで本研究では、対人関係に困難を有する特別な支援を必要とする幼児に対して、個別SSTと集団SSTの長所を生かしたハイブリッド型SSTを適用し、その効果を検証する。

## 方法

対象児：4才の女兒(A児)とA児の在籍学級の年中幼児22名(男児8名, 女児14名)。A児は、強い口調で主張したり、降園時等に「まだ遊びたい」と泣き叫ぶことがしばしばある。なお、A児の保護者と幼稚園長には、研究の目的・内容を説明し、同意を得た。

アセスメントの内容：

- ①幼児用社会的スキル尺度(金山他, 2011)：「主張スキル」、「協調スキル」、「自己統制スキル」の3下位尺度16項目で構成されている幼児の社会的スキルを評定する尺度。
- ②自由遊び場面の行動観察：大学生2名によって、幼稚園での自由遊び場面の行動を観察した。

Table 1 A児と在籍学級幼児の社会的スキル尺度得点の変化

	個別SST前	集団SST後	1ヶ月後FU	F-Value
主張スキル	22.5 (4.06)	25.77 (5.00)	25.64 (4.87)	17.29*** pre<postFU**
A児の得点	19	23	23	
協調スキル	19.04 (3.74)	21.36 (3.05)	21.68 (2.61)	14.85*** pre<postFU**
A児の得点	11	17	19	
自己統制スキル	10.09 (2.54)	13.23 (2.00)	13.5 (1.82)	37.36*** pre<postFU***
A児の得点	8	10	12	

( )内は標準偏差

\*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

③聞き取り調査：学級担任と保護者に幼稚園や家庭でのA児の様子について聞き取りを行った。

指導形態：個別SSTは、夏季休暇中に対象児の幼稚園の1室において全5セッション実施した。集団SSTは、夏期休暇明けに対象児の在籍学級で全5セッション実施した。指導時間は1回30分間とし、前半15分間はスキルの指導、後半15分間は学んだスキルを活用するゲームや活動を行った。

## 結果

社会的スキルの変化：A児の「主張スキル」は、個別SST前

から集団SST後にかけて増加し、1ヶ月後フォローアップでもその状態が維持された。「協調スキル」と「自己統制スキル」の得点は、個別SST前から1ヶ月後フォローアップにかけて次第に増加した。在籍学級児の社会的スキルも個別SST前から集団SST後にかけて有意に増加し、1ヶ月後フォローアップでもその状態が維持されていた(Table 1)。

行動観察の結果：A児の自由遊び場面における「適切な働きかけ」の頻度はほとんど変化しなかった。一方、「適切な応答」は、個別SST前は10分間に1.0回の頻度であったが集団SST後は平均2.7回と微増した。A児は、個別SST後から遊びをやめる合図があったらすぐに気持ちを切り替えて遊びをやめるようになった。遊びをやめられないときでも、教師や仲間が声をかけるとすぐにやめることができるようになってきた。また、自分の要求が通らないことがあっても、以前のように泣き叫ぶことはなくなった。

聞き取り調査の結果：A児の担任教師からは、集団SST後からフォローアップ期にかけて遊びの終わりや帰る時間を守るようになったと報告があった。また、個別SST前よりも集団SST後の方が落ち着きがあり、仲間とのやりとりが穏やかになったと報告があった。保護者からは、集団SST後には家庭でも時間を指定しておく時間を守って遊ぶとの報告があった。また、集団SST後からフォローアップ期にかけて、自分の思い通りにならないことがあっても、以前のように泣き叫ぶことが少なくなったとのことだった。

## 考察

本研究の結果、個別SSTと集団SSTの長所を生かしたハイブリッド型SSTは、人間関係上の課題を有する幼児にとっても学級集団にとっても効果的であることが確認された。今後は、個別SSTと集団SSTをどのように組み合わせることが、より効果的であるかについて検討する必要がある。

(TOGASAKI Yasuko)